

成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 評価表

実習期間： 年 月 日 ～ 月 日

学籍番号： 学生氏名：

項目	評価内容	配点	教員	臨地指導者	自己評点	自己評価の根拠（実習要項の実習目標に照らし合わせて目標が達成できたか評価する）
情報収集と看護上の問題の明確化	①患者の病態・治療が理解できる。	10				
	②患者の家族・職場・地域における役割を明らかにするとともに疾患を抱えることによって、これらにどのように影響を及ぼしているの理解できる。	4				
	③患者の言動を観察することによって精神的側面を理解できる。	4				
	④看護に必要な情報をゴードンの11パターンを使って系統的に収集できる。	4				
	⑤患者のセルフケア能力を明らかにできる。	4				
	⑥患者の退院後を視野に入れた解釈・分析ができ、生活指導に繋げられる。	4				
	⑦相互のデータの関係性から患者の全体像をとらえ問題点を明らかにできる。	4				
	⑧患者とその家族の問題点を判断し、適切な看護問題を表現することができる。	4				
	⑨看護問題の優先順位を決定できる。	4				
計画立案	①看護問題に基づき具体的で達成可能な看護目標を立案できる。	3				
	②科学的根拠に基づき患者の個別性を考慮した看護計画を立案できる。	3				
	③現実的で実現可能な具体的な看護計画を立案できる。	3				
看護の実践	①患者の安全と治療環境を維持した援助ができる。	3				
	②立案した計画に基づいて看護実践できる。	3				
	③患者の苦痛を軽減し、安楽が得られる看護が実践できる。	3				
	④家族に配慮しながら援助できる。	3				
	⑤在宅療養に向けADL拡大と自立への援助ができる。	3				
	⑥患者のセルフケア能力や病状・障害に応じ、チーム医療の役割や社会資源の活用が理解できる。	3				
	⑦患者が生活全般を自己管理できるように家族を含めての教育を計画し実施できる。	3				
評価	①毎日の経過記録のなかで評価ができる。	3				
	②患者の状態に応じて計画の追加・修正・再評価ができる。	3				
	③患者が主体的に病気を管理できるような看護過程が展開できたか客観的に評価できる。	3				
倫理的配慮 医療チーム一員としての行動	①患者・家族のプライバシーを守り、気持ちや感情を理解できる。	2				
	②学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。	2				
	③カンファレンスに参画し、考えを発言できる。	2				
	④記録用紙は専門用語を用いて正確に記述し、期限を厳守して提出できる。	4				
	⑤患者・家族および医療者とのコミュニケーションを図れる。	2				
	⑥チーム医療の中における自己の役割を認識し、報告・連絡・相談ができる。	5				
	⑦自己の健康管理ができる。	2				
評点	総合評点	100				欠席数（臨地： 日、学内： 日、合計： 日）、遅刻（ 回）、早退（ 回）
指導教員 総合評価	印	臨地指導者サイン（ ）				